

職名

氏名

教員のICT活用指導力等の実態


(1) 教員の活用指導力の状況

現在活用(指導)できる環境にない方、今まで実際に活用(指導)する機会がなかった方においても、活用(指導)が必要な場面を想定して回答してください。

本調査票3ページの選択肢の定義を参照して、これまで一度でも、コンピュータ等のICTを活用した授業(例 生徒の調べ学習等)を行った経験のある方や、実施した経験はないが実践できる方は自信を持って積極的に「できる」と回答してください。

なお、県の第3期教育振興基本計画では、「すべての教員がICTを活用した指導ができる」ことを目標としており、指導力に自信が持てない教員を対象に、「ICT特別研修」を検討しています。

該当する選択肢に○ 		できる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力					
A-1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用する。				
A-2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。				
A-3	授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、プレゼンテーションソフトなどを活用する。				
A-4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。				
B 授業にICTを活用して指導する能力					
B-1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。				
B-2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。				
B-3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに組みこませる。				
B-4	グループで話し合ったり考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。				
C 児童生徒のICT活用を指導する能力					
C-1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル操作など)を児童生徒が身に付けることができるように指導する。				
C-2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。				
C-3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。				
C-4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。				

該当する選択肢に○ 		できる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力					
D-1	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。				
D-2	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの機器を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。				
D-3	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。				
D-4	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。				

(2) 研修の受講状況

- ① 令和2年度中に、(1)のA-1～D-4の項目に関する研修を受講しましたか

【 はい・いいえ 】

「はい」  ②へすすむ。 「いいえ」  調査終了です。

- ② 令和2年度に受講した①の全ての研修について、研修の実施主体ごとに参加回数を回答してください。

- ・国、独立行政法人 → () 回
- ・都道府県 → () 回
- ・市（区）町村 → () 回
- ・学校 → () 回
- ・教科等の研究会 → () 回
- ・民間（企業、NPO等） → () 回
- ・各種学会 → () 回
- ・その他（ ） → () 回

※調査は以上です。御協力ありがとうございました。

選択肢の定義について

A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力

できる	質問項目について、おおむねできる。	A-3による例：ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用し、授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成することができる。
ややできる	質問項目中のICT活用方法がわかる。	ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどの操作方法がわかる。
あまりできない	校内研修等を受けなければ、操作することができない。	校内研修等を受ければ、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどの操作方法がわかる。
ほとんどできない	操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）を受けなければ、操作することができない。	ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどの操作方法がほとんどわからない。

B 授業にICTを活用して指導する能力

できる	学習活動においてICTを活用することができる。	B-1による例：コンピュータや提示装置などを活用して資料などを提示することで、児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりすることができる。
ややできる	実践事例集や手引きを見れば、ICTを活用することができる。	コンピュータや提示装置などを活用して資料などを提示することができる。
あまりできない	ICTを活用した指導方法について、校内研修等を受けなければわからない。	校内研修等を受ければ、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを提示することができる。
ほとんどできない	ICTを活用した指導方法について、操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）を受けなければわからない。	コンピュータや提示装置などを活用して資料など提示する方法がほとんどわからない。

C 児童生徒のICT活用を指導する能力

できる	質問項目について、おおむね指導することができる。	C-1による例：学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導することができる。
ややできる	実践事例集や手引きを見れば、指導することができる。	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を知っている。説明できる。
あまりできない	校内研修等を受けなければ、指導することができない。	指導方法がわからないので、校内研修等が必要。
ほとんどできない	操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）を受けなければ、指導することができない。	指導方法がわからないので、操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）が必要。

D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

できる	質問項目について、おおむね指導することができる。	D-1による例：児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導することができる。
ややできる	実践事例集や手引きを見れば、指導することができる。	実践事例集や手引き等を見れば、児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導することができる。
あまりできない	校内研修等を受けなければ、指導することができない。	指導方法がわからないので、校内研修等が必要。
ほとんどできない	操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）を受けなければ、指導することができない。	指導方法がわからないので、操作などの基本的な内容から段階的に研修（校外研修を含む）が必要。